

## 土台を据える

### バプテスマの教理(水に浸る)

今日も宣言から始めましょう。今日の宣言は、「あなたがたの中のある人たちは」という言葉で始まっている、I コリント6:11からです。「ある人たち」というのは、「以前はそのような者でした」と言われているその前の節で挙げられている様々な恐ろしい罪に関わった人々です。でも、その次のことばが、「しかし」とされていることを神に感謝します。こう続いています。

*「しかし、主イエス・キリストの御名と私たちの神の御霊によって、あなたがたは洗われ、聖なる者とされ、義と認められたのです。」*

私たちは、それを個人的に受け取り、「あなたがたの中のある人たちは」から除外され、「しかし」で始めていき、それを私たちのあかしとしたいのです。ですから、みなさんもそのように宣言していきましょう。暗唱するのが難しい聖句ではありません。「あなたがた」という部分を「私たち」に代えて宣言しましょう。

*「しかし、主イエス・キリストの御名と私たちの神の御霊によって、私たちは洗われ、聖なる者とされ、義と認められたのです。」*

アーメン！

では、ヘブル 6:1-2にある6つの教理の学びを続けましょう。最初の2つの、死んだ行いからの回心、神に対する信仰について学びましたので、3つ目のバプテスマの教理に移っていきましょう。私たちが実際に神のことばに基づいているという確認のために、ヘブル 6:1-2を読みます。

*「ですから、私たちは、キリストについての初歩の教えをあとにして、成熟を目ざして進もうではありませんか。死んだ行いからの回心、神に対する信仰、きよめの洗いについての教え、手を置く儀式、死者の復活、とこしえのさばきなど基礎的なことを再びやり直したりしないようにしましょう。」*

それでは、今日お話しする3つ目の教え、バプテスマの教理です。教理とは、教えている内容とも言えます。バプテスマという言葉は複数形です。バプテスマは一つだけではありません。実は、新約聖書では3種類のバプテスマについて触れられており、いずれそれらの一つずつ学びます。

最初に、その3種類のバプテスマについてお話ししましょう。第一に、ヨハネによるバプテスマ、すなわちバプテスマのヨハネのバプテスマです。第二に、クリスチャンのバプテスマで、一つ目のものと同じではありません。第三に、聖霊のバプテスマです。これらは別々のバプテスマで、すべて新約聖書で重要な役割をしています。

バプテスマを受ける、という言葉の意味について少し説明します。これは英語ではなく、ギリシャ語のバプティゾから直接来ている単語です。その意味は、浸すです。浸すには2つの方法があり、どちらも新約聖書と密接に関連してい

ます。水の中にある物を浸し、それが完全に水で覆われること、あるいは、ある物の上に水を注いで浸すことです。しかし、どちらの場合であっても、部分的ではなく、全体的なものです。

バプテスマとは、変化ということです。新約聖書で語られているあらゆる場合のバプテスマは、実に変化を表わしています。あなたが一つのものから別のものへ移るのです。部分的にではなく、あなたのすべてが移るということです。その理由から、バプテスマは完全に浸すことであると強調することは重要であると私は信じます。あなたの一部分だけが影響を受けるのではなく、あなたのすべてがこのバプテスマのプロセスによって影響を受けるのです。

さて、その単語は、2、3種類の前置詞(日本語での格助詞)が伴いますので、その説明をしましょう。「～に」、「～の中へ」、「～へ」という格助詞が付くことがあります。「～に」というのは、あなたが浸るものを表わし、水や聖霊でしょう。「～の中へ」は浸されることにより生まれるものや結果を表わします。あなたは、バプテスマによる変化の結果としてどのような中を通過していますか。たとえば、バプテスマのヨハネのバプテスマは、水により、悔い改め、あるいは罪の赦しの中へと移ります。「～に」と「～の中へ」というのがありますね。これはあとで話しますが、聖霊によるバプテスマは聖霊により、イエス・キリストのからだの中へというものです。あなたがバプテスマについて考えるとき、2つの質問を試みなければなりません。「～に」とは「何に」なのか、「～の中へ」とは「何の中」なのかという2つです。

ヨハネのバプテスマを見てみましょう。バプテスマを授ける者という事実からそのように呼ばれた、バプテスマのヨハネによるバプテスマです。マルコ1:2-5です。

「預言者イザヤの書にこう書いてある。「見よ。わたしは使いをあなたの前に遣わし、あなたの道を整えさせよう。荒野で叫ぶ者の声がする。『主の道を用意し、主の通られる道をまっすぐにせよ。』」

それは、バプテスマのヨハネの特定のミニストリーでした。彼は、メシヤの前を歩み、メシヤの道を整えました。彼のメッセージは基本的にとてもシンプルで、悔い改めという一語で要約できるでしょう。次の節です。

「そのとおりに、バプテスマのヨハネが荒野に現れて、罪の赦しのための悔い改めのバプテスマを宣べ伝えた。」

しかし、その言葉は罪の赦しの中へ、です。彼らは、罪の赦しに導くバプテスマで、悔い改めのバプテスマを受けました。罪の赦しの中へ入る、水によるバプテスマです。

その目的は、イスラエルが長く待ち望んでいたメシヤ、ナザレのイエスが来られるための道を整えることです。私は、神の民の心が悔い改めによって整えられるまでは、イエスが来ることができない、神がイエスの来られるために解放されない、ということはとても意義あることだと思います。神の民の心は、悔い改めにより整えられなければなりません。ある意味、悔い改めは、今日神の民が必要としている最も重要な唯一のメッセージだと思います。それは単なる提案にすぎませんが。

ヨハネのミニストリーはまた、神が取り扱われる2つの時代、別の言い方をすると、律法と預言者による体系と、恵みとイエスと共に来る福音の体系という2つの体系をつなぐ非常に重要な摂理でした。ですから、ヨハネは神の目的

のすべてを明らかにすることにおいて、不可欠な人物です。私たちがヨハネについて知っていることは比較的少なく、私自身、彼のミニストリーの重要性を過小評価してきたと思います。ヨハネのミニストリーは簡潔ですが、不可欠です。イエスのために道を整えるのです。人々にとって彼のインパクトは本当にすごいものでした。5節を見てみましょう。

「そこでユダヤ全国の人々とエルサレムの全住民が彼のところへ行き、自分の罪を告白して、ヨルダン川で彼からバプテスマを受けていた。」

ヨハネは、非常に短期間に、確かに数多くの人々、エルサレムの全住民、ユダヤなどの人々に触れました。

私はいつも、神がなされる方法を思い巡らします。神さまは委員会を作ったり、スタジアムを借りたり、聖歌隊を作ったり、「さあ、会議をしましょう。」ということはありません。神は最もありえそうな方法でなされます。らくだの毛の衣を着て荒野に住む単なる一人の男です。すべての人々が彼のところへ行きました。それが、神がなされる方法のようです。神は予期しない方法で物事を行ないます。そして、人々を引き寄せるものは、組織ではなく、広告でもなく、知名度でもなく、それは、神の超自然的な働きなのです。私たちには何が必要でしょうか。私たちには今日同じものがが必要です。神の炎が燃えているところに人々に行くのです。それがどこであれ、説教者の人格がどうであれ、また、教育を受けているかどうかは問題ではありません。私たちが知る限り、バプテスマのヨハネは神学校での訓練はありませんでしたが、神によって燃やされていました。イエスはのちに、彼の時代の人々にこう言っています。「彼は燃えて輝くともしびであり、あなたがたはしばらくの間、その光の中で楽しむことを願ったのです。」しかし、残念なことに、イエスが語っておられた人々は、その炎をとらえることはできませんでした。彼らは光のもとへ行き、光のもたらす益を受けましたが、決して炎をとらえることはできなかつたのです。イエスのヨハネへの賞賛はとても力強いです。彼は燃えて輝く光でした。輝きたいなら、燃えなければならぬことは科学的にも真実であると私は思います。熱くならない光はありません。ですから、それを心に留めましょう。私たちがイエスのために輝きたいなら、燃えなければなりません。神が私たちを置かれるどの場所においても、燃えて輝く光となるように祈りましょう。

先ほども言いましたが、ヨハネのバプテスマは罪の赦しの中へのものでした。彼は律法・預言者と福音の間の体系をつなぐものでした。イエスは、このことをマタイ 11:13 で言っており、ヨハネについて次のように言っています。

「ヨハネに至るまで、すべての預言者たちと律法とが預言をしたのです。」

ヨハネはその体系の終わりであり、福音の恵みの新しい体系へと移るつなぎ目です。しかし、それが彼を重要な人とさせたのです。ある意味、神の民の歴史を二分します。彼は一つの時代の終わり、別のものが始まりました。私自身、バプテスマのヨハネの意義をあまり感謝していなかったとよく思われます。なぜなら、聖書は彼について多く語っていないからです。しかし、そのすべては大変意義深いものです。

さて、ここでのヨハネのバプテスマは、バプテスマを受けにくる人々に3つのことを要求しました。第一に、悔い改めのバプテスマであることです。私たちはすでに悔い改めについて学びました。それは、感情ではありません。何かの終わりで、向きを変えて、反対方向に向かって行くことです。ヨハネはバプテスマを受ける人に条件を提示しました。まず、決心、そして行動です。

第二に、ヨハネは罪の告白を命じました。このことは、今日の教会において多くの人の考えから欠落しているように思えます。しかし、私は、神の民が聖霊による十分な確信をもって自分の罪を告白する時、それは非常に力強いものであることを見て悟りました。それは、過去の輝かしい様々なリバイバルの鍵となってきました。特に、1904年イギリスのウェールズでのリバイバルでは、人々が罪を告白するというのが特徴的でした。

あなたは、自分の罪を公けに告白する必要はありませんが、罪を告白しなければなりません。なぜなら、神が赦してくださる罪はただ、私たちが告白する罪だけだからです。使徒ヨハネは最初の手紙でこう書いています。第一ヨハネ1:9です。

「もし、私たちが自分の罪を言い表すなら、神は真実で正しい方ですから、その罪を赦し、すべての悪から私たちをきよめてくださいます。」

この聖句は、「もし、私たちが自分の罪を言い表すなら」で始まっています。もし、私たちが告白しないなら、神が赦してくださるという保証はありません。

私は、告白していない罪をたくさん抱えた数多くの信者を長年にわたって取り扱ってきました。彼らは、いやしや祝福を求めてやって来るのですが、なぜいやされないのかと彼らは不思議に思っています。彼らは巨大な重荷を背負っています。ダビデは言いました。「私の咎が、私の頭を越え、重荷のように、私には重すぎるからです。」みなさん、今あなたが大きな重荷を背負っているなら、それはあなたに告白していない罪があるからです。みなさんの中には、神と2人きりになって、聖霊に心を開いて、「神さま、私に告白する必要のある罪を示してください。」と言う人もいでしょう。しかし、忘れないでください。もし、罪を告白しないなら、神はあなたを赦してくださる保証はありません。私たちが告白するなら、神は赦してくださいます。

第三に、バプテスマのヨハネは生き方を変えるしるしを命じました。彼は人々に対して、悔い改めたというしるしを求めたのです。悔い改めたように見えない人々が彼のところへ来たときは、その人へのバプテスマを拒否しました。特に、その人々とは、当時の宗教的な人々、パリサイ人やサドカイ人でした。イエスはパリサイ人を指して、言いました。「あなたがたは、ヨハネが義の道を持って来たのに、彼を信じなかった。しかし、取税人や遊女たちは彼を信じたからです。」その前の節では、「取税人や遊女たちのほうが、あなたがたより先に神の国に入っているのです。」と言っています。それは、いわば独特なものですから、宗教色の強い人々にとって、新しい神の方法をとらえることは、とても難しいのです。そして通常、彼らは屋根をつけたら、「はい、これでおしまい。」と言います。次に神の風が吹くときに、神が最初にされることは、その屋根を吹き飛ばすことです。彼らは、神が次になさろうとしていることに腹を立て、動こうとはしません。

そう、これはまるでパリサイ人のようです。ヨハネは、わかりやすく語る人でした。私は以前、聖霊に満たされた人々の特徴についての学びをしたことがあります。今日は深く説明しませんが、最初に、バプテスマのヨハネです。彼は母の胎にいたときから聖霊に満たされていました。そして、イエスとペテロ、パウロとステパノです。彼らのほとんどが殉教したと知ったときは、非常に驚きました。もう一つ私が発見したことは、彼らはすべて、わかりやすく語る人たちで、宗

教的な立派な言葉は用いませんでした。聖霊は、不鮮明なものや、奥歯に物が挟まったようなものを認めることができません。聖霊はわかりやすく、はっきりしたメッセージを求めます。あなたはヨハネの言っていることに耳を傾けてください。多くの説教者は今日、ヨハネのようではありません。マタイ 3:7-9 を読みましょう。

「しかし、パリサイ人やサドカイ人が大ぜいバプテスマを受けに来るのを見たとき、ヨハネは彼らに言った。「まむしのすえたち。だれが必ず来る御怒りをのがれるように教えたのか。それなら、悔い改めにふさわしい実を結びなさい。『われわれの父はアブラハムだ』と心の中で言うような考えではいけない。あなたがたに言うておくが、神は、この石ころからでも、アブラハムの子孫を起すことができになるのです。」

これは、驚くべき宣言ではないでしょうか。あなたの家柄や家系、また背景などに、より頼まないで下さい。あなたは個人的に神の条件に向き合わなければなりません。以上がバプテスマのヨハネの3つの要求です。悔い改める、罪を公けに告白する、生き方の変化の立証です。

ここで、バプテスマについて、どこにおいても適用できることを紹介したいと思います。彼は人々に悔い改めのバプテスマを授けたとあります。しかし、彼は人々がすでに悔い改めていない限り、バプテスマを授けませんでした。ですから、バプテスマは、悔い改めを生むものではなく、その人が悔い改めたというしるし、証拠でした。あなたは、「～の中へ浸される」という言葉が用いられているすべての箇所です。これが真実であることを見つけるでしょう。バプテスマは、人々を引き寄せたことを示すために用いられたのではなく、彼らの始まりとなるしるしを示すために用いられました。このことはまたあとでお話します。

さて、ヨハネのバプテスマには限界があります。それは、人々をある地点までしか導きません。第一に、それは新しいのちをもたらしません。マタイ 11:11 で、イエスはヨハネのバプテスマについて言っています。

「まことに、あなたがたに告げます。女から生まれた者の中で、バプテスマのヨハネよりすぐれた人は出ませんでした。しかも、天の御国の一番小さい者でも、彼より偉大です。」

ヨハネは女から生まれましたが、新しく生まれることはありませんでした。彼が新しいのちへと入らなかったのは、イエスが来られるまでそれは不可能だったからです。ですから、彼は、女から生まれた人の中では最も偉大だったのです。しかし、神の国で最も小さい者でも、ヨハネよりも偉大なのです。それは、私たちがどのようなものであるかによるのではなく、神がどこに私たちを置かれたかによるのです。神は私たちが新しいのちを通して神の国の中に導き入れてくださいました。イエスが、「人は、新しく生まれなければ、神の国を見ることはできません。」と言われたことを思い出しましょう。ですから、ヨハネには限界がありました。神が制限を与えたのです。

第二に、これは重要なことですが、ペンテコステの後、ヨハネのバプテスマは、もはや有効なものとして受け入れられませんでした。これは使徒の働き19章の最初の数節で明らかにされています。

「アポロがコリントにいた間に、パウロは奥地を通してエペソに来た。そして幾人かの弟子に出会って、「信じたとき、聖霊を受けましたか」と尋ねると……」

私たちは、弟子たちがどのようであったかについて言っているのではありません。明らかに、パウロははっきりしていませんでした。しかし、彼は行く所どこにおいても、「信じたとき、聖霊を受けましたか。」と尋ねたと私は想像します。それは、聖霊を受けないで信じるのが可能かどうかを確かめているのです。私の最初の妻はそのような人でした。彼女は、聖霊を受けることについて熱心でした。会う人誰にでも、「あなたは聖霊を受けましたか。」と聞きました。今日、人々にこの話題を持ち出すことは、少ないのではないかと思います。「あなたは信じたときに聖霊を受けましたか。」と。

その後、パウロは発見しました。

「彼らは、『いいえ、聖霊の与えられることは、聞きもしませんでした』と答えた。『では、どんなバプテスマを受けたのですか』と言うと、『ヨハネのバプテスマです』と答えた。」

さて、これの理解にはいろいろありますが、もし彼らが、「私たちは聖霊があることを聞いたことがありません。」と答えていたら、パウロは、「では、どんなバプテスマを受けたのですか。」と言ったのでしょうか。なぜ、「では」と言ったのでしょうか。クリスチャンが聖霊について聞いたことがないということはあるのでしょうか。マタイ28章でイエスは弟子たちに一つの説明をされています。

「父、子、聖霊の御名によってバプテスマを授け……」

ですから、バプテスマを受けたとき、彼らは聖霊について聞いているはずですが、パウロはイエスにある信者としてバプテスマを受けたのではなく、ヨハネのバプテスマしか受けていないと気づいたのです。

パウロはこう続けます。

「そこで、パウロは、『ヨハネは、自分のあとに来られるイエスを信じるように人々に告げて、悔い改めのバプテスマを授けたのです』と言った。」

パウロは彼らが受けたのは、準備となるバプテスマで、イエスが来られ、死んでよみがえられた今は、それでは充分でないと言ったのです。そして5節です。

「これを聞いたその人々は、主イエスの御名によってバプテスマを受けた。」

これは重要なことです。イエスを、バプテスマを授ける資格がある主、メシヤとして認識しなければなりません。

「パウロが彼らの上に手を置いたとき、聖霊が彼らに臨まれ、彼らは異言を語ったり、預言をしたりした。」

パウロは徹底的でした。うわべだけのものは何も受け入れませんでした。本物だけを徹底的に求めたので、彼らはイエスにある信者とならなければなりません。彼らは明確な体験として水でバプテスマを受けたあと、パウロが手を置いて祈り、彼らは異言を語ったり、預言をしたりしました。

ですから、ヨハネのバプテスマには制限が設けられたのです。

では、クリスチャンのバプテスマ、つまりイエスの信者としてのバプテスマに移りましょう。これは、多くのクリスチャンが自覚しているよりさらに重要なことであると言わなければなりません。一般的に、バプテスト派であっても、水によるバプテスマの本当の意味や重要性への理解は乏しいです。あなたは罪人であるので、イエス・キリストが受けたバプテスマを受けたのではありません。イエスが受けたのは、悔い改めのバプテスマではないからです。マタイ 3:13-17 を見てみましょう。

「さて、イエスは、ヨハネからバプテスマを受けるために、ガリラヤからヨルダンにお着きになり、ヨハネのところに来られた。しかし、ヨハネはイエスにそうさせまいとして、言った。『私こそ、あなたからバプテスマを受けるはずなのに、あなたが、私のところにおいてになるのですか。』」

この時、ヨハネはイエスがメシヤであることを知りませんでした。なぜなら、ヨハネの福音書で彼はこう言っています。「御霊がある方の上にとどまって、その上にとどまられるのを見たので、この方が神の子(メシヤ)であるとわかったのです。」ですから、それはイエスの人生のあかしです。ヨハネは、イエスがメシヤであるとは知らなくても、「私こそ、あなたからバプテスマを受けるはずなのに、あなたが、私のところにおいてになるのですか。」つまり、「あなたは私以上にさらに義なる方です。私はあなたにバプテスマを授けるべき者ではない」と言ったのです。

「ところが、イエスは答えて言われた。『今はそうさせてもらいたい。このようにして、すべての正しいことを実行するのは、わたしたちにふさわしいのです。』そこで、ヨハネは承知した。こうして、イエスはバプテスマを受けて、すぐに水から上がられた。すると、天が開け、神の御霊が鳩のように下って、自分の上に来られるのをご覧になった。」

ヨハネの福音書では、「御霊がこの方の上にとどまれ・・・」と言っています。

「また、天からこう告げる声が聞こえた。『これは、わたしの愛する子、わたしはこれを喜ぶ。』」

新約聖書が水のバプテスマに重要性を強調しすぎているということはありません。なぜなら、この場面での3人の神格がそれを支持しているからです。イエスは水の中を通り、聖霊がイエスの上にとどまりましたが、それはイエスが水でバプテスマを受けるまで下りませんでした。そして父なる神が天から、「これはわたしの愛する子、わたしはこれを喜ぶ」と語りました。水の中でバプテスマを受けることが、神の目にはとても重要であることを神は強調したかったのだ、とあなたは信仰を持って言うことができるでしょう。

さて、クリスチャンのバプテスマの性質についてお話したいと思います。イエスは悔い改めるべき罪がなかったので、それは悔い改めのバプテスマではありませんでした。イエスは悔い改めたのでバプテスマを受けたのではなく、またヨハネのバプテスマを受けたのではなく、ヨハネからバプテスマを受けたのです。何のためにでしょうか。イエスご自身が言っておられます。

「今はそうさせてもらいたい。このようにして、すべての正しいことを実行するのは、わたしたちにふさわしいので

す。」

イエスは、私のためとか、私たちのためには言われませんでした。イエスはバプテスマの水を通して、イエスに従うすべての人とご自身を同一視されました。イエスがふさわしい、適切だと言われたのは、このような方法ですべての義が成就するようになるということです。それこそ、イエスに従う者としてイエス・キリストの御名でバプテスマを受けるときに行なうことです。あなたは悔い改めのバプテスマを受けるではありません。あなたは悔い改めましたが、それがバプテスマを受ける理由ではありません。あなたは義を成就するために、すべての義を完全にするために、バプテスマを受けるのです、これはとても重要なポイントで、私はそれを強調したいのです。ローマ5:1を見てみると、イエスの信者としての私たちにパウロが言っています。

「ですから、信仰によって義と認められた私たちは、私たちの主イエス・キリストによって、神との平和を持っています。」

イエスにある私たちの信仰によって私たちは、義と認められたとパウロは言っています。それは、新約聖書の中でほとんど理解されなかった最も重要なことばの一つです。それには、解放する、無罪を宣告される、正しいとみなされる、義とされるなど、様々な意味があります。イエスにある信仰によって私たちは、解放され、無罪とされ、正しいとみなされ、義とされました。ですから、バプテスマを受けるべきなのです。私たちは悔い改めたからではなく、私たちの義を完全にする方法がバプテスマです。私たちはすでに、イエスにある信仰により義とされ、この水のバプテスマはその義を成就する、あるいは完全に、実行するためにふさわしい方法であるということです。

繰り返し言いますが、水のバプテスマの重要性は、ほとんど理解されていないと私は考えるのです。よくなされる答えは、「そうですね、バプテスマを受けたいなら、2週間後に洗礼式がありますから、ここに名前を書いておいてください。」これは新約聖書のバプテスマの取り扱い方ではありません。

バプテスマの本質は献身です。イエスの死、埋葬、復活において、イエスと一つになることです。ローマ6:3-4を見てみましょう。

「それとも、あなたがたは知らないのですか。キリスト・イエスにつくバプテスマを受けた私たちはみな、その死にあずかるバプテスマを受けたのではありませんか。私たちは、キリストの死にあずかるバプテスマによって、キリストとともに葬られたのです。それは、キリストが御父の栄光によって死者の中からよみがえられたように、私たちも、いのちにあって新しい歩みをするためです。」

このように、クリスチャンのバプテスマはイエスの死、埋葬、復活においてイエスと一つになることです。私たちはイエスとともに死に、イエスとともに水の中に葬られ、水から出て、以前の生活とは異なる新しい歩みをするために、イエスとともによみがえるのです。そしてパウロは、イエスは父の栄光によって使者の中からよみがえったと言っています。しかし、ローマ1:4に戻ってみると、イエスは聖霊によってよみがえったとあります。ですから、私たちがバプテスマを受けるとき、私たち自身の生き方に終わりが来るということです。自分の力や自分の義、自分の能力ですることの終わりが来たのです。これからはイエスのようになっていくのです。私たちが水の墓から出てくるとき、聖霊の力で歩くよ



うになるのです。イエスはご自身で死からよみがえったのではありません。そのことは非常に重要です。イエスは聖霊を通して父なる神により死からよみがえられたのです。パウロはローマ 1:4 で言っています。

「聖い御霊によれば、死者の中からの復活により、大能によって公に神の御子として示された方、私たちの主イエス・キリストです。」

ユダヤの裁判、そしてローマの裁判という2つの裁判でイエスは罪人として死刑を宣告されました。しかし、3日目に墓が開いたとき、イエスは死からよみがえっており、神は裁判の判決を覆しました。神は言われました。「これは私の子である。彼はまったく義であり、わたしは彼のいのちを戻す。なぜなら、彼を信じる者すべてに対して、いのちと信仰の作者となるからである。」復活はなんと重要なのでしょうか。そして、水のバプテスマは、よみがえりの実質的な行為なのです。

私はかつてアフリカ人学生に教師になる訓練をする教師でした。基本的に、次のことを教えました。「人は聞いたことの30%を記憶し、見て聞いたことの60%を記憶し、見て聞いて行なったことの90%を記憶する。」ですから、生徒たちをただ机に座らせて何かを聞かせるだけでなく、授業で理解したことを示す何かを行なう活動をさせてください。そして神も同じ原則を用いられます。神は私たちにただ理論を教えるだけでなく、見るように、行なうようにさせます。水のバプテスマは、一つの新鮮な行ないで、毎回イエス・キリストの死と埋葬、復活が行なわれるのです。初代教会では、あなたが告白した信仰の行ないをするまでは、教会に加わることはできませんでした。ですから、「私は信じます。」と言っただけでは十分ではなく、その信仰の行ないをしなければなりませんでした。

さて、あなたは葬られ、よみがえったのなら、もはやあなたのいのちはあなたには属してはいません。バプテスマはあなたの死刑宣告なので、自分の生き方を生きたいと願うなら、バプテスマを受けるべきではありません。そしてバプテスマは、あなたのみがえりです。しかし、あなたはよみがえったのなら、あなたのいのちはあなたには属していないのです。いいですか。それは弟子としての献身です。

マタイ 28 章の最後に、イエスは、福音を宣言することにおいてなすべきことを弟子たちに教えています。マタイ 28:19-20 です。

「それゆえ、あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子としなさい。そして、父、子、聖霊の御名によってバプテスマを授け、また、わたしがあなたがたに命じておいたすべてのことを守るように、彼らを教えなさい。見よ。わたしは、世の終わりまで、いつも、あなたがたとともにいます。」

イエスは、行ってあらゆる国の人を弟子とするようにと言われました。イエスは教会員を作るようにとは言っていませんよね。今日の教会の最大の問題点は何でしょうか。それは教会員たちが弟子ではないことです。なぜなら、宣言しようとしている真理が間違っているからです。あなたは、弟子となりたくないなら、バプテスマを受ける権利はありません。バプテスマは弟子になる献身です。彼らは、バプテスマを受ける前の教えにあまり時間を割きませんでした。いったん献身の決断をしたら、教えたのです。それは納得のいくことです。なぜ、献身していない人々に教えるという無駄な時間を費やすのでしょうか。彼らの献身を証明させ、知る必要のあることを彼らに教え始めましょう。

私は東アフリカでの宣教団体でこのことを経験しました。彼らはバプテスマを受けたい人を何週間もかけて教えますが、実際には、なぜかほとんどが異教のバプテスマを受けたのです。知識を得て、心の経験は全くありませんでした。彼らはイエスへの真の献身をすることはありませんでした。このことからわかったことを分かち合いたいと思います。

まず、クリスチャンのバプテスマに求められることをちょっと考えてみましょう。ヨハネのバプテスマに求められることについてはすでに学びました。第一に、イエスは行って、あらゆる国の人を弟子とし、バプテスマを授けなさいと言われました。ですから、バプテスマを受けようとする人はイエス・キリストの福音を聞いたことがなければなりません。私が福音はどのようなものと説明したことを覚えていらっしゃいますか。それは、イエスが死なれたこと、葬られたこと、よみがえられたことという3つの歴史的事実です。それを信じるなら、あなたは義とされるのです。あなたは義人です。ですから、福音のシンプルな事実に向き合ってこなかった人はバプテスマを受けることができません。

二つ目に求められることは、悔い改めです。使徒の働き2:38でペンテコステの日に、心を刺されたけれども、まだ救われていない人々にペテロが言ったことばを見てみましょう。37節で人々はこう聞いています。

「兄弟たち。私たちはどうしたらよいでしょうか。」

ペテロは、「悔い改めなさい……」と答えました。

前に言いましたが、悔い改めは最初の一步です。

「悔い改めなさい。……イエス・キリストの名によってバプテスマを受けなさい。そうすれば、賜物として聖霊を受けるでしょう。」

これが神のプログラムです。一節にすべて含まれています。なぜ私たちはそれを、何週、何か月に分けるのでしょうか。私は救われた時に聖霊のバプテスマを受けたことについてとても無知でした。私は教会ではなく、軍隊のバラック小屋で救われたので、それが聖霊のバプテスマであると知ったのは、後になってからでした。私は同時に聖霊のバプテスマを受け、異言と解き明かしの賜物を受けました、それらすべてを受けるために長期間待たなければならないというクリスチャンに加えられなかったことを神に感謝します。ペテロはそのようには言いませんでした。彼は、ひとまとめにして言いました。悔い改めなさい、水のバプテスマを受けなさい、聖霊の賜物を受けなさい、です。あなたが人々にそのように真理を伝えるなら、彼らは応答し、そのことが起こるのだと私は言うことができます。長く待たなくてもいいのです。長引くプロセスではありません。ある意味、それは危険なもので、一つの性質から別の性質へ移ることです。

三番目に、バプテスマを受ける人は信じなければなりません。マルコ16:15-16でイエスは弟子たちに言われました。

「全世界に出て行き、すべての造られた者に、福音を宣べ伝えなさい。」

2000 年経った今も、まだその仕事は終わっていないことは、私たちの責任です。

「全世界に出て行き、すべての造られた者に、福音を宣べ伝えなさい。信じてバプテスマを受ける者は、救われます。」

ですから、あなたが信じないなら、バプテスマを受けることはできません。信じる者とならなければなりません。信じてバプテスマを受ける者は救われるのです。イエスさまは、バプテスマを受けずに信じる者の救いの保証を決しておられないことを言うておきましょう。あなたは、「私はその点については主と決着済みです。」というかもしれません。あなた次第ですが、あなたは信じる者としてバプテスマを受けない限り、みことばによる救いの保証はありません。そして、バプテスマと私が言うのは、あなたの頭のとっぺんからつま先まで全体が浸かる、ということです。

I ペテロ 3:21 でペテロは他の条件を言っています。ここで、ペテロはノアの時代について語っています。まず 20 節にこうあります。

「昔、ノアの時代に、箱舟が造られていた間、神が忍耐して待っておられたときに、従わなかった霊たちのことで、わずか八人の人々が、この箱舟の中で、水を通して救われたのです。」

これはとても重要なことばです。神は箱舟が整えられるまで洪水を送らなかったとペテロは言っています。箱舟が出来上がるまで神は忍耐して待たれ、そして洪水を送られました。そして、地上にいるすべての人のうち、たった 8 人しか救われませんでした。これは非常に重要なことです。当時の地上の全人口は少なくとも 200 万人はいたと思われます。200 万人の内たった 8 人だけが救われたのです。

救いは多数派のものではありません。非常に多くの疑問を私たちは持っています。民主主義社会は多数派の意見により決められます。神は決してそのように問題を取り扱いません。神の決断により決められるのです。

ペテロは 21 節でノアの箱舟と洪水についてこう言っています。

「そのことは、今あなたがたを救うバプテスマをあらかじめ示した型なのです。」

お分かりですか。ペテロは、バプテスマは私たちが救うと言っています。続けて、こう言っています。

「バプテスマは肉体の汚れを取り除くものではなく、正しい良心の神への誓いであり、イエス・キリストの復活によるものです。」

それが 4 つ目の条件です。正しい良心によって神に応答することができるということです。言い換えれば、「神さま、私は罪人です。悔い改めます。イエスさまが私のために死んでくださったことを信じます。イエスにある信仰によって私は義とされています。主よ、私は罪人としてできる限りのことをしました。どうかわたしを受け入れてください。」ということです。正しい良心で神に応答してください。あなたは、神が求めておられる以上のことはできません。神が求めら

れていることすべてを行なえば、あなたは正しい良心で神に応答したということになります。

では、信者としてバプテスマを受けるための 4 つの条件を復習しましょう。

- 一つ目、福音を聞かなければならない。
- 二つ目、悔い改めなければならぬ。
- 三つ目、福音を信じなければならぬ。
- 四つ目、神に対して正しい良心を持たなければならぬ。

私はどんな形でも論争はしたくありませんが、論争せずの一つのことが言えます。幼い子どもは、これら 4 つの条件を一つも満たすことができません。それは単純な事実です。

さて、前にお話したことですが、バプテスマの教えには長い時間をかける必要はありません。私は以前いた宣教団体にそれを知ったのです。そこでは回心者を 6 週間かけて教え、バプテスマを授けます。彼らは以降の教えのバプテスマを授けていました。人々は一度も本当に主と出会ったことがなく、彼らの生き方には変化がありませんでした。彼らは良い人々ですが……

では、その期間の長さについて、確かな事実をお話ししましょう。ペンテコステの日に三千人の人が、メッセージを聞いたその日にバプテスマを受けました。使徒たちは、「では、少し待って、6 週間で 4 つ目の実をもたらしたら、バプテスマを授けましょう。」とか、「あなたがイエスのすべての教えを心で学んだらバプテスマを授けましょう。」とは言いませんでした。彼らは、条件に見合ったので人々にバプテスマを受けたのです。彼らは信じ、悔い改め、献身をすることを願いました。彼らは少数派であったので、それは評判が良くない献身であったということに注目して下さい。

そして使徒の働き 8 章では、エチオピアの宦官がピリポから福音を聞きました。そこを読んでみましょう。何が起こりましたか。ピリポはガザへ下る道の途中でした。彼は、御使いにより、サマリヤでの興奮すべきリバイバルから旅立ちました。ピリポは何故だかわかりませんでした。そして、彼は馬車に乗ったエチオピアの宦官を見、その宦官は声を出してイザヤ書を読んでいました。そして宦官はピリポに聞きました。

「預言者はだれについて、こう言っているのですか。どうか教えてください。自分についてですか。それとも、だれかほかの人についてですか。」

彼はイザヤ書 53 章の「ほふり場に連れて行かれる羊のように」を読んでいました。そして宦官は、預言者が誰についてそれを言っているのかという当然の質問をしたのです。そして 35 節。

「ピリポは口を開き、この聖句から始めて、イエスのことを彼に宣べ伝えた。」

言い換えると、ピリポはイザヤが預言している子はイエスであると言ったのです。そしてイエスのことを宣べ伝えました。ピリポは伝道者で、また模範です。彼のメッセージは非常にシンプルでした。一言です。サマリヤで彼はキリストを

宣べ伝え、ガザへの道でイエスを宣べ伝えました。私は、本物の伝道者の働きが大好きです。私自身はそうではありませんが、いつも私は真の伝道者の働きを見ると、私の内の何かが興奮するのです。伝道者の仕事は、罪人に救い主を紹介することです。それがなされると、その働きは完成です。ピリポはそれをサマリヤで行ない、次へ進みました。多くの人は、素晴らしく成功した集会のゆえに、そこにとどまります。しかし、ピリポは神から示されてとどまらずに進みました。それは従順のテストです。ですから、彼はガザへの道に行き、馬車に乗った宦官と出会い、イエスを宣べ伝えました。みなさんに知っていただきたいのは、彼がイエスを宣べ伝えたことです。

「道を進んで行くうちに、水のある所に来たので、宦官は言った。『ご覧なさい。水があります。私がバプテスマを受けるのに、何かさしつかえがあるでしょうか。』そして馬車を止めさせ、ピリポも宦官も水の中へ降りて行き、ピリポは宦官にバプテスマを授けた。」

ここでは、ピリポはイエスのことを宣べ伝えただけしか書いていませんが、イエスを宣べ伝えるときに、バプテスマについても語ったはずです。なぜなら、ピリポではなく、宦官が率先してそれを求めたからです。宦官は、「ご覧なさい。水があります。私がバプテスマを受けるのに、何かさしつかえがあるでしょうか。」と言いました。ピリポは、「わかりました。そうしましょう。」と言って、二人は水の中へ降りて行きました。新約聖書で書かれているバプテスマは常に、人々が水の中へ降りて行き、水から上がってきます。

それから、ピリポは聖霊によって移動させられる興奮すべき経験をし、宦官は二度とピリポを見ることはありませんでした。しかし、宦官は戸惑うことなく、喜びながら道を進みました。ここで、宦官が最初に福音を聞いてからバプテスマを受けるまで、おそらく1-2時間であったと思われます。それは長い準備期間ではありませんでした。

そして、コルネリオの家です。この話はご存知でしょうが、ペテロは、自分の宗教的信念に反するので、異邦人の家に行くことにしり込みしていました。しかし、ペテロはイエスについて話しはじめ、素晴らしいことが起こりました。彼の説教はさえぎられました。私も「神さま、私たちの説教をもっとさえぎってください。」と言いたいです。そう、聖霊が説教に割って入ります。そしてそれをまだ聞いている間に、にです。使徒の働き 10 章 44 節からです。

「ペテロがなおもこれらのことばを話し続けているとき、みことばに耳を傾けていたすべての人々に、聖霊がお下りになった。割礼を受けている信者で、ペテロといっしょに来た人たちは、異邦人にも聖霊の賜物が注がれたので驚いた。

これは、浸されています。そのことについては次の学びでお話しますが、これは浸かっているのです。彼らは上から浸されました。ナイアガラの滝のような注ぎです。人々はなぜ驚いたのでしょうか。

「彼らが異言を話し、神を賛美するのを聞いたからである。」

今日、多くの説教者はこう言います。「では、6週間ほど待ってみて、あなたが実を結んだら、私たちはそれが本物だとわかるでしょう。」異邦人たちが、ペテロやその友人たち以上の者となれると信じることができる人はいませんでした。人々は異邦人が異言で語るのを聞いて、「そうか、彼らも私たちのように受けたのだ。」と思ったのです。続きで

す。

「そこでペテロはこう言った。『この人たちは、私たちと同じように、聖霊を受けたのですから、いったいだれが、水をさし止めて、この人たちにバプテスマを受けさせないようにすることができましょうか。』」

次の48節で、彼らにバプテスマを受けるように命じた、とあります、彼は勧めたのではなく、命じたのです。それは神への従順の行為です。どのくらい経ってからですか。おそらく、彼らが初めて異言で話し始めてから、水のバプテスマを受けるまで1時間ほどだったでしょう。遅れることはありませんでした。

それから、使徒16章のピリピの看守たちです。これはいつも私の心に訴えかけてきます。パウロとシラスが牢に入れられ、そこは一番奥の、最大の警備がなされていた牢屋で、真夜中に彼らは何をしていたのでしょうか。賛美し、主をほめたたえていました。他の囚人たちも聞き入っていたと書いてあり、それまでにそんな囚人はいなかったでしょう。すると、突然、彼らの賛美が神の超自然的な力を解き放ち、獄舎の土台が揺れ動き、すべての扉が開き、みな鎖が解けてしまいました。ローマの制度では、囚人が脱走すると、看守は終身刑になるので、看守たちは自殺を試みます。パウロは、「自害してはいけません。私たちはみなここにいる。」と言いました。使徒29節にこうあります。

「看守はあかりを取り、駆け込んで来て、パウロとシラスとの前に震えながらひれ伏した。」

本当に驚くべきことです。看守が囚人の前にひれ伏すのです。

「そして、ふたりを外に連れ出して『先生がた。救われるためには、何をしなければなりませんか』と言った。ふたりは、『主イエスを信じなさい。そうすれば、あなたもあなたの家族も救われます』と言った。」

多くの人が見落としているところですが、家族のかしらとして彼は、家族のために信じる権利を持っています。

「そして、彼とその家の者全部に主のことばを語った。」

彼の家族はみな、主のことばを聞ける年齢でした。

「看守は、その夜、時を移さず、ふたりを引き取り、その打ち傷を洗った。そして、そのあとですぐ、彼とその家の者全部がバプテスマを受けた。」

彼らは夜明けを待つことさえなく、すぐに受けました。新約聖書のクリスチャンにとって、水のバプテスマがどれほど急を要するかについてみなさんにお話しすべきかどうかわかりません。しかし、彼らの救いはそれにかかっていたので、彼らは時を待つことも、次回の洗礼式を待つこともありませんでした。信じてバプテスマを受ける者は救われるのです。私は論争したくありません。あなた自身でどのように応答するかを決めればよいと思っています。

では、バプテスマの霊的意義を簡単に見てみましょう。すでにローマ6章で言われているので、その箇所を見てみ

ましよう。ローマ 6:3 からです。

「それとも、あなたがたは知らないのですか。キリスト・イエスにつくバプテスマを受けた私たちはみな、その死にあずかるバプテスマを受けたではありませんか。」

パウロが、「あなたがたは知らないのですか。」と言うときはいつも、現在のクリスチャンの多くが知らないことであるのではないかと私は思います。それは注目すべきことです。パウロがそのように言うとき、今日のクリスチャンの多くが知らないことであるということです。そして、

「私たちは、キリストの死にあずかるバプテスマによって、キリストとともに葬られたのです。それは、キリストが御父の栄光によって死者の中からよみがえられたように、私たちも、いのちにあつて新しい歩みをするためです。」

ですから、お話したように、私たちは死と埋葬によってイエスと一つとされており、そこでは終わらないことを神に感謝します。イエスとともに葬られたのなら、私たちはまた、よみがえらされたからです。

そしてパウロは、とても重要なことを言います。5 節です。

「もし私たちが、キリストにつき合わされて、キリストの死と同じようになっているのなら、必ずキリストの復活とも同じようになるからです。」

パウロは、バプテスマにおいて葬られることについて語っており、もし私たちが葬られたのなら、必ず復活すると言っています。それから、彼はこう言っています。

「私たちの古い人がキリストとともに十字架につけられたのは、罪のからだは滅びて、私たちがもはやこれからは罪の奴隷でなくなるためであることを、私たちは知っています。」

つまり、バプテスマが示している事実は、イエスが十字架で死なれたとき、私たちの罪深さ、肉の、反抗的な性質はイエスにあつて死んだということです。これは啓示です。あなたの罪は赦されましたが、なおも反抗的な性質であることをあなたはご存知でしょう。多くの人がそうです。教会に行き、罪を告白し、赦され、再び罪を犯し、の繰り返しです。それは神の目的ではありません。イエスが十字架で死なれた時、私たちの古い人、すべての人が持っている反抗的な性質が死んだという歴史的事実をその人たちが知らないというのが理由の一つです。その方法しかなかったのです。反抗に対する他の解決策はありません。それは、唯一死に渡されることです。しかし、良き知らせは、イエスが十字架で二千年も前に死んだことです。ですから、パウロはそれを知らなければならないと言っているのです。

11 節を見ましよう。

「このように、あなたがたも、自分は罪に対しては死んだ者であり、神に対してはキリスト・イエスにあつて生きた者だと、思いなさい。」

パウロは、あなたは罪に対しては死んだ者であり、しかし、神に対しては生きたものであると思わなければならないと言っているのです。その目に見えるプロセスが、水のバプテスマです。あなたは墓の中に入り、墓から出て、あなたの古い罪深い性質を墓に残し、新しく造られた者として出てくるのです。

では、もう一つのとても重要な聖句を見ていきましょう。2章11節です。

「キリストにあつて、あなたがたは人の手によらない割礼を受けました。肉のからだを脱ぎ捨て、キリストの割礼を受けたのです。」

ユダヤの律法では、割礼は単に肉の一部を取り除くだけです。しかし、クリスチャンの割礼は罪深い性質全体、からだ全体を捨てることです。からだが生きたとき、次に何をしますか。そう、埋葬です。遺体を埋葬せずにそのままにしておくことは、実に侮辱していることになるのです。

私は、北アフリカでイギリス軍にいましたが、私たちは決して遺体をそのままにしておくことはせず、常に土に埋めました。それについて思うことですが、あなたがもし古い自分に死んだのなら、埋葬してください。わかりますか。

「あなたがたは、バプテスマによってキリストとともに葬られ、また、キリストを死者の中からよみがえらせた神の力を信じる信仰によって、キリストとともによみがえらされたのです。」

バプテスマは、信じる人々のだけ働くのです。私たちの神への信仰によって、私たちはよみがえらされます。信じなければ、それは起こりません。

1つの重要な事実をガラテヤ 3:27 から紹介しましょう。

「バプテスマを受けてキリストにつく者とされたあなたがたはみな、キリストをその身に着たのです。」

私たちは何の中へとバプテスマを受けるのですか。キリストです。私たちは教派や教会の中へとバプテスマを受けるものではありません。これは深刻な誤りです。再び私の東アフリカの時代に戻りますが、そこでの最大の伝道団体は、その団体に入るというバプテスマを受けなかった人は会員として受け入れませんでした。信者としてちゃんとバプテスマを受けた人であっても、その団体で受けていなかったら、団体に入るためのバプテスマを受けなければなりません。それは間違いです。この世的です。私たちは教会の一員となるためではなく、キリストにつくバプテスマを受けることを神に感謝します。

そして、先ほども言ったように、それは信仰によってのみ効果的なのです。

そして、私たちの新しいのちは、聖霊によって力が与えられていることを理解する必要があります。キリストを死からよみがえらせた同じ霊が、私たちの内に働くのです。

では、簡単に旧約聖書のバプテスマについて見ていきましょう。すでに、I ペテロ 3:20-21 でノアの箱舟について



見ました。ペテロはそれが水によるバプテスマの予型であると言っています。ノアの箱舟のメッセージは何でしょうか。まず、さばきが来ることです。さばきから逃れる唯一の方法は箱舟に入ることでした。ですから、洪水は神のさばきを表わしており、箱舟は、聖書においては常にイエス・キリストを表わしています。箱舟の中であなたは安全にさばきの水を通り抜けることができます。箱舟の外では、水に沈んでしまいます。イエス・キリストという箱舟の中にいる以外の方法はないのです。そして箱舟の中で安全に水を抜け、まったく別の、新しいいのちの中へと来るのです。古いのちは洗い流され、新しいのちがあなたに開かれています。それがノアの方舟が表わしていることです。

そして、もう一つの描写が、I コリント 10:1-2 にあります。

「そこで、兄弟たち。私はあなたがたにぜひ次のことを知ってもらいたいです。私たちの父祖たちはみな、雲の下におり、みな海を通過して行きました。そしてみな、雲と海とで、モーセにつくバプテスマを受け……」

そしてパウロは 6 節でこのように言っています。

「これらのことが起こったのは、私たちへの戒めのためです。」

そう、パウロは、2 つの体験を通るエジプトからの解放である、出エジプトにおけるすべてのイスラエル人のことを言っているのです。雲が上から彼らの上に降りてくる、パウロは、それは雲によるバプテスマだと言っています。また、彼らは水の中におり、水の中を通り、水から出る、それをパウロは海によるバプテスマだと言っています。ですから、この 2 つのバプテスマがすべての信者に示されています。雲が上からあなたに降りてきてあなたは雲に浸り、また水の中に入って水を通して水から出ます。水から出てきた時に、新しい律法による新しいいのちと、新しい指導者が始まります。他のものはすべて過ぎ去ったのです。

また、エジプト人たちを遮断した水、それはとても重要です。イスラエルの民は子羊の血にある信仰によってエジプトで救われましたが、それはエジプト人から切り離しませんでした。水がエジプト人を切り離したのです。そしてバプテスマは私たちを切り離します。私たちはイエスの血にある信仰で救われますが、バプテスマを受けるまでは切り離されません。

私は何千人もの人々の悪霊からの解放を取り扱ってきました。可能な限りどこにおいても、私は常に人々にこう語りました。「もし、あなたが解放され続けたいなら、水のバプテスマを受けなさい。」なぜなら、それは遮断するからです。血ではありません。血はエジプトであなたを救い、水はあなたをエジプトから切り離します。水と雲による遮断です。彼らはモーセにつくバプテスマを受けたと書いてあります。言い換えれば、これは、彼らをモーセのリーダーシップのもとにさせたということです。私たちはモーセにつくバプテスマを受けるのではなく、キリストにつくバプテスマを受けるのです。キリストが私たちの指導者です。しかし、聖書的に、イエスにつくためには、私たちは雲の下を通り、水を通らなければならないのです。それは非常に明確なことです。

また、ヘブル 11:29 を読んでみましょう。ただ信仰によるということが強調されています。もし、あなたが未信者であるなら、乾いた罪人として水に入り、濡れた罪人で水から出てきます。それは表面的な状況が変わっただけです。私

は、それを実際に行なった人のことを聞いたことがあります。その人はその後本当の救いを経験しました。彼は独唱歌手で、教会で歌っていました。教会で歌うにあたって、教会の人々は「歌を歌う人はバプテスマを受けることになっています。」と彼に言うと、彼は「いいですよ。」と返事をしました。その時彼は乾いた罪人でした。彼は水に入り、濡れた罪人として水から出てきました。信仰がなかったからです。ヘブル 11:29 です。

「信仰によって、彼らは、かわいた陸地を行くのと同様に紅海を渡りました。エジプト人は、同じようにしようとしたが、のみこまれてしまいました。」

エジプト人はなぜ、のみこまれましたか。信仰がなかったからです。ですから、もしあなたが水のバプテスマを受け、信じていないなら、ただ水にのみこまれるだけです。ただイエスにある信仰によっていのちが新しくされることを経験できるのです。

これはとても真剣な話題です。今日のほとんどの教派や教会が認識している以上によりさらに真剣なことです。私は、罪人だと感じた人々を何度も取り扱ってきました。彼らはこう聞きます。「次に何をしたらいいですか。」「バプテスマを受けることです。」「いつですか。」「できるだけ早く、今でもです。」私はその人々をフロリダの海岸に連れて行きました。そしてこう言いました。「あなたがたにバプテスマを授けますが、他の服は用意していません。」彼らは、「大丈夫です。濡れたまま家に帰ります。」しかし、彼らは、バプテスマの重要性、バプテスマの緊急性を理解してきました。

みなさんにお勧めしたいことは、バプテスマについて私たちの考え方を教会で刷新する必要があるということです。それは救いの一部です。私は、あなたが信者であるのにバプテスマを受けていないなら、あなたは救われていないと言っているのではありません。それは主とあなたの間の問題です。私には、あなたが救われると告げる権威はありません。信じてバプテスマを受ける者は救われると書かれています。

しばらく祈りましょう。

主、イエス・キリストさま、あなたはご自身のからだである教会のすべてのかしらです。あなただけが私たち一人ひとりの心を知っておられます。あなただけが、彼らとあなたとの関係がどのようなものであるかを正確に知っておられます。しかし主よ、私は心から祈ります。もし、これを聞いていらっしゃる方で本当に救われたい、弟子になりたいけれども、まだ水のバプテスマを受けていないなら、あなたが聖霊によってその人の心に緊急性を備え、従順へのステップを踏ませてください。主イエス様、このことが、あなたの栄光とあなたのみからだを建て上げることになりますように。イエスの御名によって。アーメン。